

## 保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人柏松会
施設名	青山すぎのこ保育園
報告者（役職）	坂本 康子（園長）
住所・連絡先	宮城県宮城郡利府町青山一丁目4-1 TEL 022-767-8841 E-mail 2013aoyama@gmail.com

### ○タイトル(保育計画)

豊かな園庭づくり ～子ども達がいいき、のんびりできる空間～

### ○主な助成備品

・畑の造成（100㎡） ・パーゴラ（2メートル×4メートル） ・芝生広場（120㎡）

#### 1. 実施した保育計画策定の目的

青山すぎのこ保育園は宮城県の東部に位置しています。2011年の東日本大地震後、広大なガレキ置き場だった土地を整備し保育園が建ちました。時間の経過に伴い園庭にはガレキの残がいが出てくるようになり、建設業者や職員、時には子ども達にも石拾いを手伝ってもらいながら園庭の整備を行ってきました。

広い園庭を有効に活用するために「畑」・「パーゴラ」・「芝生広場」を作り、子ども達が豊かに活動し、安心・安全な環境のもと生活することを目的としました。

#### 2. 具体的な実施内容

##### I 「畑」での野菜作り

- ① 待ちに待った「畑」が出来上がると、草取りや石拾いをしながら、畑の土のふわふわとした感触を味わいました。
- ② どんな野菜を育てたいのか話し合い、年長児が絵を描いて発表しました↓



畑にトラック20台分の土を入れる↑



肥料も入れ栄養満点の畑完成↑



野菜の育て方を図鑑で調べています↑

③ 種まきや苗植えをし、野菜を「育てる」活動が始まりました。

4月下旬 ジャガイモの種付けをしました。

5月中旬 ピーマン、きゅうり、なす、オクラ  
さつまいもの苗を植えました。



毎朝、苗に水やりをするのが楽しみです↑  
「大きなあれ！」 「おいしいお水だよ！」

6月上旬 きゅうりに小さな黄色い花が咲きました↓  
「花が咲いたよ！」とみんな大喜びでした。



6月下旬 にんじん、大根の種をまきました。  
里いも、らっかせいの苗を植えました。

夏野菜はどんどん大きくなり、子どもの背丈  
よりも大きく成長しました→

畑には数々の野菜が育ち「緑の広場」のよ  
うになりました。畑の中では毎日新しい発見  
があり、活動もどんどん広がっていきま



ピーマンの苗を植えています↑



支柱を立て、追肥をしました↑



にんじんの「芽」の間引きをしました↑



「葉っぱがざらざらする」「きゅうりはとげとげしてる」  
「なすの花は紫色！」「里いもの葉っぱって、トトロ  
の傘みたいだね」等々、子ども達の発見です。

④ 色々な野菜の収穫ができるようになりました。

7月上旬 「花が咲いて実がなる」様子を体感。  
大きく実った野菜を、はさみで収穫  
していきました。 なすの収穫→



8月上旬 ジャガイモを収穫しました↑

土の中からジャガイモが出てくる、出てくる！



10月上旬 葉っぱの大きい大根を収穫しました↑

土の付いた大根をきれいに洗いました↑



10月下旬  
らっかせいの実の付き方にビックリ↑

人参は小さめでしたが、葉っぱ付きは  
初めての経験↑



地域の皆さんの協力をいただきました↑

地域の未就園児の皆さんも収穫に参加しました↑

⑤ 収穫した野菜を食べる。



さつまいもは「焼き芋」にして食べました↑  
「ホクホクしてあま〜い！」



苦勞して育てた野菜の調理は格別↑  
出来上がったカレーは特別の味でした。



10月末には「収穫祭」をしました↑



たくさん収穫できた野菜は家庭にもおすそ分け↑  
家庭でも「野菜」の話題で盛り上がったようです。

「畑づくり」では、石を拾ったり、雑草を取ったり、土を柔らかくする作業をしたりする中で、土の感触を味わい、友だちと協力することも経験できました。

苗植えや種まきをした後は毎日張り切って世話をし、「芽が出たよ!」「花が咲いたよ!」「赤ちゃんみたいなオクラができてる!」と子ども達の発見や喜びがありました。

自分達が育てた野菜に対する愛情で、苦手なピーマンも食べてみたり、塩もみした野菜をもりもり食べたり、いつもとは違った食に対する意欲がありました。

野菜を育てる楽しさの中には、とげとげのきゅうりを収穫する苦勞、どろんこの大根を洗う大変さ等々も体験しました。子どもなりに「野菜」が食卓に並ぶまでの大変さを感じることができたと思います。

## Ⅱ「パーゴラ」を造る

園庭に日よけとなるものがなかったため、畑の隣のスペースに「パーゴラ」を設置しました。屋根にすだれを結びつけると、「小さなうち」が完成!夏の暑い日は、日よけとして大活躍でした。木製のテーブルとベンチを置き、ままごとをしたり、みんなで集まっておしゃべりを楽しんだり、のんびりできる空間となっています。



### Ⅲ「芝生広場」を造る

子ども達は室内では「はだし」で生活しています。

子どもにとって「はだし」で大地を踏む習慣は、手足の感覚器官を育てるために大切です。安心・安全な園庭で、「はだし」で過ごすことをもっと経験させたいと考え「芝生広場」を設置しました。



#### ①芝生の感触を味わう

歩き始めの赤ちゃんがはいはいをしたり、よちよち歩きをして尻もちをついても大丈夫。初めはチクチクするのを嫌がりましたが慣れた様子です。

#### ②芝生広場の空間を楽しむ

マイナスイオン効果か、砂地よりも過ごしやすく開放感があります。わらべうた遊びをしたり、ごろごろ寝転んだり、ホッとする空間となっています。



### 3. その成果と評価

整備が行き届かない広い園庭をどのように活用していくべきか考え、「畑」・「パーゴラ」・「芝生広場」を造っていきました。

「畑」については、子ども達がいきいきと活動する姿に私たち職員も嬉しくなり、毎日の「発見」を共に喜び合いました。子ども達は「作業」が大好きで、目的のために頑張る姿にも驚かされました。野菜ができるまでの過程を経験したことで、「野菜をちゃんと食べる」「給食をちゃんと食べる」という意欲も高まったようです。「食べもの」に対する興味を持ち、「食べること」に意欲的な子どもに育ってきていると感じています。

「パーゴラ」・「芝生広場」については、ゆったり、のんびりとできる空間ができたことで、ホッと一息つき、動から静への切り替えをすることができました。芝生のあざやかな緑やふわふわした感触に癒されるのは、大人も子どもも同じです。保育園の子ども達は保育時間が長いので、活動の場所が変わって気分が変わったり、新鮮な気持ちになることは大切なことと考えています。

### 4. 今後の課題と展望

「野菜づくり」の知識が乏しく、本を広げたり、知っている人に教えてもらったりと、職員みんなで試行錯誤の取り組みでした。苗から育てた作物はそれなりの収穫ができたのですが、種からのにんじん、大根はうまくいきませんでした。どんな野菜が適していたのか、どんな栽培をすればよかったのか職員サイドの反省は多くありました。

これから冬にかけて「畑」はお休みになりますが、子どもたちと一緒に「枯れ葉」を集めて畑にうめています。(春には栄養満点の土が出来るといいなあと期待しています。)

また、今年の実践をもとに「野菜づくり」について学んでいきたいと思えます。来年はどんな野菜を育てていきたいのか、楽しみな学びになると思えます。子ども達には引き続き、食べものに対する興味を持ち、「食べものに対する感謝の気持ち」や「作ってくれた人への感謝の気持ち」につなげていきたいと考えています。

以上